

添付書類

- 1 法人にあってはその登記事項証明書
別添のとおり

- 2 主として販売する物品の種類

小売業を行う者の氏名（名称）	主として販売する物品の種類
株式会社クリエイトエス・ディー	総合

- 3 建物の位置及びその建物内の小売業を行うための店舗の用に供される部分の配置を示す図面
別添図面№2 周辺図、図面№3 配置図のとおり

- 4 必要な駐車場の収容台数を算出するための来客の自動車の台数等の予測の結果及びその算出根拠
【指針により算出する場合】

	事 項 等	必要駐車台数等	各事項算出のための計算式等
店舗の来客者	地区の区分	その他地区	準工業地域
	S：店舗面積	1,297 千 m^2	$1,297 m^2 \rightarrow 1.297 千m^2$
	A：店舗面積当たり 日來客数原単位	1,061 人/千 m^2	人口 40 万人未満 店舗面積 5,000 m^2 未満 $1,100-30S$ ($S < 5$) 綾瀬市人口：82,563 人 (令和 8 年 5 月 1 日現在)
	B：ピーク率	14.4 %	指針値
	L：駅からの距離	1600m	駅名：小田急江ノ島線 長後駅
	C：自動車分担率	80 %	人口 10 万人未満 その他地区：80
	D：平均乗車人員	2.0 人/台	店舗面積 10,000 m^2 未満
	E：平均駐車時間係数	0.619	店舗面積 10,000 m^2 未満 ($30 + 5.5S$) $\div 60$
	F：必要駐車台数	49 台	$A \times S \times B \times C \div D \times E$
	その他の施設等の利用者		
その他の施設等の利用者	従業員通勤車両用	0 台	公共機関を利用
	業務用車両用	0 台	該当なし
	搬出入車両用	0 台	荷さばき施設を別途確保
	併設施設の車両用	0 台	該当なし
	その他	0 台	該当なし
	G：その他の施設等必要駐車台数計	0 台	
必要駐車台数合計		49 台	【F + G】
届出収容台数合計		49 台	

5 駐車場の自動車の出入口の形式又は来客の自動車の方向別台数の予測の結果等駐車場の自動車の出入口の数及び位置を設定するために必要な事項

(1) 年間の平均的な休祭日のピーク 1 時間に予想される来客者等の自動車の方向別台数の算出

項 目		予測来台数 (台)	予測来台数の算出根拠
店舗の来客車両		79	指針の計算式による $1,061 \text{ 人/千m}^2 \times 1.297 \text{ 千m}^2 \times 14.4 \% \times 80 \% \div 2.0 \text{ 人/台} = 79.26$ 79 台 (四捨五入)
等 の 利 用 者	従業員通勤車両	0	ピーク時の利用なし
	業務用車両	0	なし
	搬出入車両	3	来客用出入口と共用
	併設施設の車両	0	該当なし
	その他	0	なし
予測来台数合計		82	—
駐 車 場 入 口	入口	82	来客車両：別添「クリエイト S ・ D 綾瀬北上土棚店新設に伴う交通報告書」P8 ～ P9 参照
	予測来台数合計	82	

(2) 駐車場の自動車の入口の形式

年間の平均的な休祭日のピーク 1 時間における駐車場の入口の入庫処理能力

駐車場入口	予測来台数 (台)	入庫処理能力 (台 / h)	入庫処理能力算出のための 計算式等
入口	82	450	$3600 \text{ (秒)} \div 8 \text{ (秒)} = 450 \text{ 台/時}$

指針参考値 (ゲートがある場合の平面自走式駐車場 (オペレーターあり)) の 8 秒 / 台を採用しました。

発券ブース等はありません。

敷地内駐車待ちスペース

駐車場入口	駐車待ちスペース (m)	必要な駐車待ちスペース	
		長さ (m)	算出根拠
入口	5	0	$(82 \div 60 \times 1.6 - 450 \div 60) \times 6 = -31.88 \text{ m}$

入口に必要な駐車待ちスペース = (当該入口の 1 分当たりの来台数 $\times$ 1.6 - 当該入口 1 分当たりの入庫処理可能台数) $\times$ 6m (平均車頭間隔)

6 来客の自動車を駐車場に案内する経路及び方法

項 目	具体的な内容
自動車の案内経路	別添「クリエイイトS・D綾瀬北上土棚店新設に伴う交通報告書」 P9 図2.車両経路図参照
自動車の案内方法	
看板等の設置	設置場所：別添図面№3 配置図 入口、出口（設置場所は予定） 方式等：安全対策のため、以下の看板等を設置します。 ・右折入庫出庫禁止看板
交通整理員の配置	配置場所：別添図面№3 配置図 入口、出口 付近 開業時は、交通整理員等を配置し安全対策に努めます。その後については状況に応じて誘導員の配置を検討します。
チラシ等の配布	配布方法：オープン時及びセール時など必要に応じて新聞折り込みチラシ等を配布します。 内容等：周辺からの案内経路を表示します。
その他	なし

7 荷さばき施設において商品の搬出入を行うための自動車の台数及び荷さばきを行う時間帯 時間帯別の搬入台数

荷さばき施設

時間帯	8t車	4t車	2t車	計	廃棄物車両	平均的な荷さばき等 処理時間	延べ荷さばき処 理時間
6時～7時	1			1		2t車両=10分 4t車両=20分 8t車両=25分 廃棄車両=15分	25
7時～8時	1		2	3			45
8時～9時		1	1	2	1		45
9時～10時		2	1	3			50
10時～11時			2	2			20
11時～12時							
12時～13時							
13時～14時			1	1			10
14時～15時							
15時～16時							
16時～17時					1		15
17時～18時							
18時～19時							
19時～20時		1		1			20
20時～21時							
21時～22時		1		1			20
合計	2台	5台	7台	14台	2台		

荷さばき・廃棄物の処理時間は、類似他店舗実績値とした。

営業時間帯に搬入車両が場内で転回する際には従業員等にて安全確保に努めます。

同時作業可能台数 8t車両1台

1時間あたりの作業可能時間60分に対し、ピーク時の延べ作業時間は50分であるため、十分に対応可能と考えられる。

8 遮音壁を設置する場合にあっては、その位置及び高さを示す図面

遮音壁の位置	遮音壁の高さ (m)
無し	-

9 冷却塔、冷暖房設備の室外機又は送風機を設置する場合にあっては、それらの稼働時間帯及び位置を示す図面

項 目		稼働時間帯	位 置
空調用室外機	S1 ~ 11	午前 8 時 ~ 午後 11 時	別添 「クリエイト S・D 綾瀬北上土棚店」新設 に伴う騒音報告書 図面№1 騒音発生源位置図参照
冷凍冷蔵用室外機	R1 ~ 5	24 時間	
給排気口	K1 ~ 16	午前 8 時 ~ 午後 11 時	
キュービクル	Q	24 時間	

10 平均的な状況を呈する日における等価騒音レベルの予測の結果及びその算出根拠

(1) 等価騒音レベルの予測の結果

時間の区分	予測地点			予測と評価	
	位置	高さ (m)	用途地域	予測値 (dB)	基準値 (dB)
昼間 午前6時 ～ 午後10時	A	1.2	準工業地域	57.5	60
	B	1.2	準工業地域	55.4	
	C	1.2	準工業地域	48.1	
	D	1.2	準工業地域	46.0	
	E	1.2	準工業地域	47.1	
夜間 午後10時 ～ 午前6時	A	1.2	準工業地域	37.4	50
	B	1.2	準工業地域	47.4	
	C	1.2	準工業地域	42.3	
	D	1.2	準工業地域	41.1	
	E	1.2	準工業地域	30.1	

(2) 等価騒音レベルの予測の算出根拠

別添騒音報告書のとおり

- 評価 -

等価騒音の予測結果は、昼間及び夜間において、計画店舗から発生する騒音は環境基準値を下回ります。

- 1 1 夜間において大規模小売店舗の施設の運営に伴い騒音が発生することが見込まれる場合にあっては、その騒音の発生源ごとの騒音レベルの最大値の予測の結果及びその算出根拠

(1) 騒音発生源ごとの騒音レベルの最大値の予測結果

騒音の 分類	騒音源			予 測 地 点			予測値 (dB)	基準値 (dB)
	予測項目		騒音発生源	位置	高さ (m)	用途地域		
定 常 騒 音	室外機	R1	冷凍冷蔵用室外機	r1	1.0	準工業地域	24.6	50
		R2	冷凍冷蔵用室外機	r2	1.0	準工業地域	34.8	
		R3	冷凍冷蔵用室外機	r3	1.0	準工業地域	39.3	
		R4	冷凍冷蔵用室外機	r4	1.0	準工業地域	34.8	
		R5	冷凍冷蔵用室外機	r5	1.0	準工業地域	39.3	
	キュービクル	Q	キュービクル	q	1.0	準工業地域	29.3	

夜間騒音レベルの最大値の合成値における騒音の予測結果

予測地点	規制値	予測結果	用途地域
ア (自敷地境界)	50	43.8	準工業地域

(2) 騒音発生源ごとの騒音レベルの最大値の予測の算出根拠

別添騒音報告書のとおり

- 評価 -

夜間における騒音発生源ごとの騒音レベルの最大値の予測結果について、店舗敷地境界の全ての予測地点で規制値を下回る。

また、夜間騒音レベルの最大値の合成値の予測結果についても、店舗敷地境界の全ての予測地点で規制値を下回る。

以上から周辺環境に与える影響は少ないと考えられる。

なお、今後近隣から苦情等があった場合は誠意をもって対応していくものとする。

1 2 必要な廃棄物等の保管施設の容量を算出するための廃棄物等の排出量等の予測の結果及びその算出根拠

【指針により算出する場合】

算出根拠等							必要保管容量
店 舗	廃棄物種別	S 店舗面積		A 1日当たりの 廃棄物等の排 出予測量（指 針原単位×S）	B 平均保 管日数 （日）	C 見かけ比重 （ t / m ³ ）	A × B ÷ C （ m ³ ）
	紙製 廃棄物等	6,000 m ² 以下の部分	1.297 千m ²	（ 0.270t ）	1	0.1	2.70
		6,000 m ² 超の部分	- 千m ²	（ 0.000t ）			
				計 0.270t			
	金属製 廃棄物等	6,000 m ² 以下の部分	1.297 千m ²	（ 0.009t ）	1	0.1	0.09
		6,000 m ² 超の部分	- 千m ²	（ 0.000t ）			
				計 0.009t			
	ガラス製 廃棄物等	6,000 m ² 以下の部分	1.297 千m ²	（ 0.008t ）	1	0.1	0.08
		6,000 m ² 超の部分	- 千m ²	（ 0.000t ）			
				計 0.008t			
	プラスチック 製廃棄物等	6,000 m ² 以下の部分	1.297 千m ²	（ 0.026t ）	1	0.01	2.59
		6,000 m ² 超の部分	- 千m ²	（ 0.000t ）			
				計 0.026t			
	生ごみ等	6,000 m ² 以下の部分	1.297 千m ²	（ 0.219t ）	1	0.55	0.40
		6,000 m ² 超の部分	- 千m ²	（ 0.000t ）			
				計 0.219t			
その他の可燃 性廃棄物等	-	1.297 千m ²	0.070t	1	0.38	0.18	
リサイクル 関連	算出根拠						必要保管容量
	紙製廃棄物等及びプラスチック製廃棄物等は上記に含みます						-
D：小売店舗必要保管容量計							6.04
そ の 他 の 施 設 等	施設		算出根拠				必要保管容量
	併設施設		なし				0
	E：その他の施設等必要保管容量計						0
必要保管容量合計（ D + E ）							6.04
届出保管容量合計							6.10